



毛呂山町長 井上 健次氏

町長のメッセージ

毛呂山町は、埼玉県の南西部に位置し、緑と清流に恵まれた里山の風景が広がる自然豊かな町です。日本最古の柚子の原産地ともいわれ、香り高く皮の厚さを誇る毛呂山の柚子は「桂木ゆず」^{かつらぎ}として全国的に知られています。

令和5年3月に、住民一人ひとりが健康で豊かに暮らせる町を目指し「健幸づくりのまち」を宣言しました。町内の埼玉医科大学グループの絶大なる協力をいただき、宣言を具現化するための事業を行っています。

来年は、毛呂山町と川角村が合併して70周年を迎えることから、町民の皆様とともにお祝いができるよう記念事業を計画的に進めてまいります。

はじめに

毛呂山町は東京都心から50km圏内、埼玉県の南西部に位置し、東は坂戸市、西は飯能市、南は日高市、北は越生町および鳩山町に接している。東西約9km、南北約7.5km、面積は34.07km²、町域の西部は山地、東部は丘陵・台地・低地で、ちょうど関東山地と関東平野の接点に位置している。穏やかな気候に恵まれ、里山、清流、そして田畑の美しい町である。

町の中央をJR八高線と東武越生線が走り、町内には、JR八高線の毛呂駅と東武越生線の東毛呂駅・武州長瀬駅・川角駅の4つの駅がある。道路では、南北に県道飯能寄居線、東西に県道川越坂戸毛呂山線、県道川越越生線が主要道路として整備されている。

毛呂の名は古く、平安時代には藤原氏の子孫がこの地に土着し、地名の「毛呂」を姓とした。鎌倉時代、毛呂季光は、源氏一門に準ずる家格の武士として鎌倉殿・源頼朝に重用された。やがて中世の毛呂郷は毛呂村へと変わり、1939年に山根村と合併し毛呂山町となった。さらに1955年、川角村と合併し現在に至り、来年合併70周年を迎える。

古くから柚子の栽培が有名で、特産の「桂木ゆず」は(表紙写真)、香りが高いことで知られ、風味を生かしたジャムなどの加工品も人気がある。

都心からのアクセスも良く、オートキャンプ場などもあり、日帰り、宿泊どちらでもアウトドアを楽しめる。毛呂山町は、四季を通じて豊かな自然・歴史・味を気軽に満喫できる町である。

鎌倉街道上道^{かみつみち}

2022年、毛呂山町の「鎌倉街道上道」が国の史跡に指定された。鎌倉街道は、鎌倉時代から室町時代に整備された鎌倉と各地を結んだ主要道の総称で、兵たちが武士の都・鎌倉へと^{つわもの}はせ参じた道といわれる。名だたる武将が合戦に及んだ戦いの道であり、ヒト・モノが行きかう流通経済の幹線道路でもあった。鎌倉から武蔵国・上野国を経て信濃・越後方面へ向かう街道を「上道」と呼んだ。他に奥州方面に向かう^{なかつみち}「中道」、常陸方面に向かう^{しもつみち}「下道」がある。

史跡「鎌倉街道上道」は、中世の街道跡と宿場跡、寺院跡(墓域)、境界の塚群という一体的な空間が良く保存されており、中世の街道の状況を明らかにする貴重な歴史遺産である。街道跡では、掘割遺構のほか石敷跡が発見された。寺院跡からは供養塔の役割をもつ板碑が多数出土し、街道沿いに分布する塚の上には、近世の庚申塔などをみることができる。



国指定史跡「鎌倉街道上道」

毛呂山町概要

人口(2024年2月1日現在)	32,294人
世帯数(同上)	16,246世帯
平均年齢(2023年1月1日現在)	51.7歳
面積	34.07km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	51所
製造品出荷額等(同上)	325.1億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	192店
商品販売額(同上)	364.9億円
公共下水道普及率	68.9%
舗装率	53.2%

資料:「令和5年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR八高線 毛呂駅
- 東武越生線 東毛呂駅 武州長瀬駅 川角駅
- 関越自動車道 坂戸西スマートICから町役場まで約8km

町では今後も鎌倉街道上道の調査研究を継続し、保存活用計画の策定、さらに観光資源としての活用に磨きをかけていくとしている。

いずもいわいじんじゃ やぶさめ 出雲伊波比神社の流鏑馬

毛呂山町の中央部に、独立丘陵臥龍山がある。山頂には、創建1900年を数える出雲伊波比神社が鎮座する。出雲伊波比神社は、平安時代の延喜式神明帳えんぎしきじんみょうちょうの中で、武蔵国入間郡五座の筆頭にあげられており、古来より格式の高い神社である。鎌倉時代以降、武士の信仰も集めた。現在の本殿は、県内最古の神社建築で、国の重要文化財に指定されている。

由緒ある当社に伝えられてきたのが流鏑馬である。1063年、源義家が奥州平定後、この地で流鏑馬を奉納したのが始まりといわれる。流鏑馬は、疾走する馬上からの的に向かって矢を射る弓術の一つで、宮中の年中行事として行われていた。鎌倉時代になると武芸鍛錬と武士のたしなみとして盛んになった。



古くから伝えられる「出雲伊波比神社の流鏑馬」

出雲伊波比神社の流鏑馬は、毛呂郷に伝えられてきた地域の伝統行事で、古式ゆかしい式次第によって進行する。春と秋に行われ、春の流鏑馬は、7歳前の幼子が射手となる儀礼的な流鏑馬である。秋の流鏑馬は15歳前後の少年が騎乗したまま矢を的に放つ騎射のほか伝統的な馬上芸を披露し、地域が安らかであるよう願う。あどけなさが残る若武者が馬場を疾走する姿は観客を魅了してやまない。

健康づくりのまち宣言

町では2023年に、身体の健康だけでなく、生きがいを持ち、心の豊かさや幸せ＝「健康」を感じることができるまちを目指し、「毛呂山町健康づくりのまち宣言」を行った。

宣言では、自然を感じてウォーキングを楽しむこと、健康的な食生活で元気な身体を保つこと、心身をいたわり笑顔でいること、世代間交流により絆を深めることをかかっている。そして「健康づくりのまち」の実現に向け、「健康づくり」「生きがいづくり」「ひとづくり」の3つの方針を定め、事業に取り組む。

医療福祉分野の恵まれた環境を活かし、埼玉医科大学グループとも連携した健康ウォーキング事業、ウォーキングマップ作製、健康マイレージ事業、特定健診・各種健診、ゆずっこ元気体操などを行っている。これらをはじめ、住民一人ひとりが健康で生き生きと、心豊かに人生を送ることができる町を目指して、様々な事業を展開していく。(吉嶺暢嗣)